

平成24年度 学校関係者評価委員会資料

本年度の重点努力目標	目標達成のための具体的な手立て	評価・反省	来年度に向けて
<p>ア 学ぶ喜びをもつ児童の育成</p> <p>・問題解決学習や体験学習等、授業展開を工夫することにより、楽しくわかりやすい授業を創造するとともに、教え合い、学び合える授業づくりを実践する。</p> <p>・現職教育のテーマ、「関わり合いを大切にし、共に高め合う児童の育成」をつねに意識した授業改善に積極的に取り組む。</p> <p>・学びに対する心構えと学習習慣の育成により、基礎・基本の習熟を図る。</p>	<p>○教師の授業力向上のため、積極的に研修に努めさせる。</p> <p>○研修で得たものを、実際の授業に取り入れ、楽しく、わかりやすい授業を構築する。</p> <p>○教師が互いに授業を「見せ合い」力量を高める。</p>	<p>○質問項目「学校は、楽しく分かりやすい授業を行っている」 肯定的意見（よくあてはまる、ややあてはまる） 保護者82.8%、児童85.2%、教員89.2% ほとんど差がなく、楽しく、わかりやすい授業づくりについてはほぼ達成できたと考える。</p>	<p>○来年度も具体的な手立てを考えながら継続する。</p>
	<p>○「学び合える授業づくり」と「関わり合い」の観点から、グループ学習やICTを活用した授業づくりを推進する。</p>	<p>○質問項目「先生は教え方にいろいろ工夫している」 肯定的意見 児童89.8% 教員の反省 「グループ学習やICT活用等をしている」（4名） いろいろな方法を意識して授業づくりをしていると考える。</p> <p>○質問項目「グループ学習するときに、グループの友だちの話をしっかり聞いたり、自分から進んで発表したりすることができる」 肯定的意見 児童77.6% 児童も少しずつ関わり合いを意識できるようになったと考える。</p>	<p>○グループ学習やICT活用を積極的にすすめる、「学び合える授業づくり」に取り組む。</p>
	<p>○「関わり合い」をキーワードにして、一人一テーマを決める。</p> <p>○個人のテーマ達成についての具体的な手立てを、学級経営案、教職員評価シートに書き、1年間の意識付けをする。</p> <p>○実物投影機たホワイトボード等、教材教具の充実を図る。</p>	<p>○全員の先生が、個人テーマを決め、学級経営案、教職員評価シートに記入することができた。</p> <p>☆教員の反省 「『関わり合い』についての研修と共通理解する場がほしい」（5名） 研修の必要性を感じる。</p>	<p>○来年度も継続する。</p> <p>○教員の研修については、内容を精査して実施する。</p>
	<p>○一人1回は研究授業を行い、テーマ達成にむけての検証をする。</p>	<p>○教員の反省 「『関わり合い』を意識した授業実践をした」（14名）。一人1回の研究授業も全員が実施することができ、現職教育のテーマがしっかり教員に浸透していたと考える。</p>	<p>○来年度も継続する。</p>
	<p>○2月20日（水）に授業研究発表会を開催し、低学年・中学年・高学年各1名が代表授業を行い、研究協議を通して、1年間の現職教育の振り返りをする。</p>	<p>○2月20日（水）の授業研究発表会には、校外より30余名の先生方の参加をいただき、授業について活発な意見交換をすることができた。</p>	<p>○来年度も継続する。（日程は現在のところ、2月19日）</p>
	<p>○学校公開日（年間5回）に授業についての保護者アンケートを実施する。</p>	<p>○授業公開日のアンケート項目「先生と児童、児童と児童などの関わり合いのある授業でしたか」 肯定的意見 1回目（6月13日）93.8%、 2回目（10月18日）95.2%、 3回目（1月23日）97.4% 十分達成できたと考える。</p>	<p>○半日の授業公開の中で、一番見ていただきたい授業を明記し、保護者に案内を出す。そして、その授業で保護者からアンケートをとる。</p>
<p>○年度当初に学習規律を徹底する。</p> <p>○発達障害児への配慮も含め、板書の仕方を単元名、めあての順で統一する。</p>	<p>☆学習規律については、まだまだのところがあり、教員の反省としても、学校統一スタイルの必要性を言う人がいた。（1名）</p> <p>☆3学期から実施したため、すぐに取り組んだ教員とそうでない教員がいた。</p>	<p>○来年度、学習指導部を中心に、発達段階に応じた学習規律を確立させていく。</p> <p>○来年度も継続する。</p>	
<p>イ 豊かな心の育成</p> <p>・児童一人一人を大切にすることを基盤に、様々な人と「関わり合う力」を育成する中で、感性を養い、自他の命を大切に、心豊かな児童の育成に努</p>	<p>○学級・学年行事や普段の活動の中で、友だちとの関わり合いを意識的につくり、学校へ行くのが楽しくなるような取り組みを行う。</p>	<p>○質問項目「子どもが学校へ行くのを楽しみにしている」 肯定的意見 保護者88.8%、児童91%、教員92.8% 100%により近づけるようにしていきたい。</p>	<p>○「学校へ来ることが楽しい」を重点目標に明記する。</p>

める。	<p>○様々な人と「関わり合う力」育成のため、ペア活動を充実する。具体的には、ペア給食、ペア遠足、ペア縄跳び大会を行う。</p> <p>○幼保小連携として、1年生との交流活動や園児による1年生の授業参観、5年生との交流給食を実施する。</p>	<p>○質問項目「年下の子には優しく接することができる。」肯定的意見 児童88%、「登下校のときに1～3年生の子が安全に通学できるように気をつけている」肯定意見 児童86.9%であった。ペア活動の成果と考えられる。</p> <p>○本年度実施したペア活動について、教員の反省として、「ペア活動を学級経営の柱にした」という意見があるように、充実した取り組みができた。</p> <p>○ペア遠足について、「高学年の意識を高めるのに役立った。」という教員の意見があった。</p> <p>☆ペア給食とペア遠足両方を行うのか、課題も残った。</p>	<p>○ペア活動の充実を重点目標に明記する。</p> <p>○ペア活動がより効果的に行われるように内容を充実する。</p>
<p>・道徳の授業を基盤にした、道徳教育に積極的に取り組み、善悪の判断力の育成や思いやりのある行動がとれる望ましい集団づくりをする。</p>	<p>○「みんな仲良く」をキーワードにして、道徳の時間に「思いやり、親切、信頼、友情」についての指導を行う。</p>	<p>○質問項目「学校は命を大切にす心やいじめ防止の指導を行っている」肯定的意見 保護者62.2%、教員96.4%であった。保護者の回答の内、「わからない」が21.1% 保護者と教員の意識の違いは、学校の状況の説明不足や対応不足があったと思う。</p> <p>質問項目「先生はいじめなど私たちが困っていることについてよく対応してくれる。」肯定意見 児童89.7% 児童は全体として、教員に信頼を寄せていることが分かった。しかし、保護者の意見、「いじめについての担任の対応が悪い」(4名)。また、教員の反省の中で「教育相談や児童との関わりなかで情報把握に努め、いじめ解消を図っていきたい」(3名)という意見があった。いじめ対応についてはまだまだ課題がある。</p> <p>○学級の児童への対応について、肯定的な意見の保護者が9名、指導や対応に不安や不満のある保護者が9名であった。また、保健室登校の児童への対応を心配される保護者が2名いた。教員と保護者との人間関係構築にまだ課題があると考えられる。</p> <p>○道徳の時間で、「思いやり・親切」「信頼・友情」の項目に力を入れた教員が3名いた。</p> <p>○質問項目「自分を大切にし、他人を思いやる行動をすることができる」肯定的意見 児童87%、質問項目「命の大切さや 社会のルールについてわかっている」肯定意見 児童89.4% 善悪の判断や思いやりのある行動について意識していることが分かった。</p>	<p>○いじめの対応について、重点目標に明記する。</p> <p>○保護者との教員の人間関係構築のための研修等を実施する。</p>
	<p>○総合的な学習の時間を活用して、お年寄りや障害者、地域の方々との関わり合いを積極的にすすめる。</p>	<p>○1年生がお年寄りとの交流、5年生が障がい者との交流、3、4年生が校区探検も含めて地域の方との交流を行った。いろいろな人と関わる中で、児童の「関わる力」を高めることができた。</p>	<p>○来年度も継続する。</p>
	<p>○人権週間に児童会主催で人権集会を行い、互いに認め合える態度を育成する。</p>	<p>○人権集会については、教員3名から肯定的意見から出された。また、「思いやりの木」の実践や「子ども人権宣言」の取り組みについては、ホームページで紹介したため、他校の教員からも賞賛を受けた。</p>	<p>○児童会の案を生かして、来年度も実施する。</p>
<p>・あいさつや返事などの基本的な生活習慣、係活動・集団での活動を通して、キャリア教育の推進を図り、勤労を尊び、自己に応じた職業観を育成する。</p>	<p>○「あいさつができる児童」をめざして、学級や朝会など様々な機会に子どもに働きかけていく。</p>	<p>○質問項目「家で、子どもとあいさつを交わしている。」肯定的意見 保護者98% 学校でも元気よくあいさつする姿が見られ、取り組みの成果があったことが分かる。しかし、保護者の中で、「あいさつしてもあいさつがかえってこない」(1名)があった。地域でのあいさつはまだ課題だと考える。</p>	<p>○学校でのあいさつはできるようになったので、地域や交通当番をしてくださるお世話になっている方々へあいさつができるようにしていく。</p>

	○中学年では係活動を意識し、他人のためになる活動ができるよう働きかけていく。	☆係活動を通して、児童個々の責任を果たさせることは大切なことである。しかし、教師が声をかけないとなかなか進まない現状があった。	○高学年の委員会活動に向け、係活動を通して意欲喚起を行っていく必要がある。
	○「感動ある出会いと体験の事業」（ふるさとふれあい協議会主催）で新田小学校卒業生の話を聞き、よりよい職業観を育てる。	○2月末日に実施。	○10月に実施予定である。
	○小学校各学年でのキャリア教育推進を図るため、年間計画を作成する。	☆教員の反省 「少なくとも高学年では職業観の育成を積極的にすすめたい。」（1名）。きちんとした年間計画の必要性を感じる。	○キャリア教育のカリキュラムを作成したい。
ウ 健康で体力のある児童の育成			
・体育の授業の充実や外遊びの奨励を図り、児童の体力向上を図るとともに、集団活動のルールを身につけさせる。	○大放課での外遊びを奨励する。	○教員の反省 「外遊びを奨励し、教員も一緒に遊んだ」（2名）しかし、「児童の数に比べ運動場が狭い」（1名）、「運動場の状態が悪い」（6名）という意見も出された。運動場の整備と放課中の体育館の開放を考えていく必要がある。	○来年度も継続する。 ○運動場の整備については、知多市教育委員会に要望していく。体育館の開放については、教員との相談で決めていく。
	○知多市小学校体力向上実践事業を活用し、ニュースポーツの研修と実践授業に取り組む。	○研修で行ったニュースポーツ「プレルボール」に早速取り組んだ学級があった。しかし、教員の中に、「体力向上授業実践は毎年やる必要はない」（1名）という意見もあった。市の指定との関係もあるので来年度どうなるかは不明である。	○生涯スポーツ課の取り組みであるが、学校の実情にあわせた取り組みをしていきたい。
	○ペアなわとび集会を開催し、大縄とびの技能の向上と体力づくりに取り組む。	○本年度はなわとび集会をペアで実施した。教員の反省で「高学年が低学年丁寧に教える姿がほほえましい」（2名）。反面、高学年は物足りなさも残ったのか、教員の反省で「高学年は学級対抗でもやりたい」（3名）があったので考えていく必要がある。	○部会での意見を尊重して実施していく。
	○学校保健委員会で「よい姿勢で生活しよう」をテーマに、姿勢体操の研修を行い、実践する。	○研修で受けた内容を、すぐ取り入れた担任もいた（1名）。しかし、子どもの姿勢はなかなかよくなかった。	○姿勢については、具体的な手立てを講じて、しっかり取り組んでいきたい。
・「早寝・早起き・朝ごはん運動」を奨励し、規則正しい生活習慣の確立を図る。	○知多市が指定を受けた「食育推進事業」の一環として、学校保健委員会で「バランスよく食べよう」をテーマに取り組む。	○知多市の指定事業「食育推進事業」を受け、「食育劇 しょくまるファイブ」を実演した。内容も分かりやすく、児童、教員、関係者の劇がすばらしく、児童の心に響いたと思う。	○来年度は内容を変更する。
	○PTA理事会で、八幡給食センター所長から、「食」についての話をしていただく。また、PTA主催の給食試食会では、栄養教諭に話をしていただく。	○質問項目「朝食を毎日とらせている。（児童は、朝食を毎日食べている）」 肯定的意見 保護者97.4%、児童95.3% 食べていない 児童1%、とらせていない保護者0.2% 肯定的意見を100%に近づけていく必要がある。	○朝食については、100%をめざしたいが、地域の実情もありなかなか難しい。保護者と児童の意識の違いも気になるので、継続して啓発していきたい。
	○各学級に1年間で1回、栄養教諭の訪問を受け、「食」についての児童の意識を向上させる。	○給食委員会が中心となり、もりもり運動を実施した。金メダルをめざして児童ががんばり、大変よかった。	○委員会の活動については、継続して実施する。
	○委員会活動や係活動を充実させ、最後まで諦めない、粘り強く、逞しい児童の育成を図る。	○質問項目「家で、早寝早起きができるようにしている。」 肯定的意見 保護者77.2% 基本的な生活習慣の確立を様々な場面で訴えていく必要がある。	○部会での意見を尊重して実施していく。
	○委員会活動や係活動を充実させ、最後までしっかり取り組む姿勢を身につけさせる。	○委員会活動については、日常的活動としてよく取り組んでいるように思う。また、児童集会で委員会の活動を紹介し、全児童が各委員会の活動を知る機会となりよいと思う。しかし、教員の反省で「毎年全委員会が発表する必要があるのか」（1名）があり、課題もある。	
エ 地域との連携			
・PTA、東部コミュニティ、ふるさとふれあい協議会、登龍門祭保存会等と連携し、学校・家庭・地域の絆を構築し、よりよいふるさとの子どもの育成	○登龍門祭の中の山車巡行について、登龍門保存会の方々と連携して実施する。将来的な地域行事への移行を考え、運動会で低学年の山車引きを実施する。また、昨年同様、	○登龍門祭の学習発表会について、本年度全校舞台発表とした。10日の当日は保護者の参観とし、7日に児童向けの発表会を行った（体育館が狭く、保護者と児童を一緒に入れられないため）。保護者の意見もおおむねよかったという意見であった。また、7日に	○学習発表会は、来年度も全校舞台発表とする。

<p>する。</p>	<p>土曜日は学校行事、日曜日は地域行事として実施する。</p>	<p>児童向け発表会を実施したため、児童同士が発表を見る機会もでき、よかった。 ○山車巡行については、運動会の時に低学年児童と保護者による山車引きを行った。予想を上回り、80組の参加者を得た。また、11日(日)の保存会主催の山車巡行にも、昨年度の倍以上の参加者があり、盛り上がった。</p>	<p>○山車巡行については、日曜日の参加者が増え、真の意味での「地域の祭り」となるよう保存会にはたらきかけていく。</p>
<p>○「ふるさとふれあい協議会」主催で、「感動ある出会いと体験の事業」を実施する。</p> <p>○ホームページを充実させ、日常の教育活動の情報発信に努める。</p>	<p>○27日に実施</p> <p>○日常の教育活動をホームページで知らせるようにしているが、なかなかホームページを更新できないのが現状である。保護者の中にも「学校ホームページは親が知らないことでも学校のことが分かるように工夫されていてよい」という意見がある反面「学年の更新頻度がバラバラ」「学年通信をホームページに掲載してほしい」という意見があるので、今後の課題としたい。</p>	<p>○27日に実施</p> <p>○保護者から「地区運動会は子ども会に入っていないと参加できない」(2名)「地区運動会や東部フェスタでは交流はない」(3名)という意見をいただいた。地域の行事のことなので、学校が何とかできるものではないが、意見についてはお知らせしていきたい。</p>	<p>○10月に実施予定である。</p> <p>○ホームページが簡単に更新できるように、形式を変更したい。</p>
<p>○地区運動会、東部フェスタに参加させ、中学生や地域の方々との連携を図る。</p>	<p>○保護者から「地区運動会は子ども会に入っていないと参加できない」(2名)「地区運動会や東部フェスタでは交流はない」(3名)という意見をいただいた。地域の行事のことなので、学校が何とかできるものではないが、意見についてはお知らせしていきたい。</p>	<p>○保護者から「地区運動会は子ども会に入っていないと参加できない」(2名)「地区運動会や東部フェスタでは交流はない」(3名)という意見をいただいた。地域の行事のことなので、学校が何とかできるものではないが、意見についてはお知らせしていきたい。</p>	<p>○来年度も内容を充実して継続する。</p>
<p>・新1年生の年度当初カリキュラムやキャリア教育等をとおして、小中連携教育、幼稚園・保育園と連携を図った活動を進める。</p>	<p>○小中連携として、夏季休業中の部活動交流や教職員合同研修、小中合同あいさつ運動、小学校の授業を中学校教員に見てもらうなどの授業交流を行う。</p>	<p>○夏季休業中の部活動交流や5年生皆泳指導の補助、小中合同あいさつ運動の取組を通して、中1ギャップ解消につなげていければと考える。</p> <p>○教員が中学校の授業を見ることにより、小学校では、何を中心に指導していくことが大切かが分かり大変参考になった。</p>	<p>○来年度も交流が深まるよう工夫しながら継続する。</p>
<p>○幼保小連携として、1年生との交流活動や園児による1年生の授業参観、5年生との交流給食を実施する。</p>	<p>○幼保小連携として、1年生との交流活動や園児による1年生の授業参観、5年生との交流給食を実施する。</p>	<p>○5年生と幼稚園・保育園との交流給食は大変よかった。5年生の態度もすばらしく、保育園・幼稚園の先生方からも賞賛された。1年生との交流活動もよかったが、連携行事の年間計画を早めに提示してほしいという要望があった(4名)。よい活動なので、早めに計画を出していきたい。</p>	<p>○来年度も交流が深まるよう工夫しながら継続する。</p>
<p>○発達に心配のある児童については保護者同意のもと、成長ファイル(個別支援計画)を作成している。それを幼稚園・保育園から小学校に、小学校から中学校に渡すことにより、児童個々の情報交換に役立てる。</p>	<p>○発達に心配のある児童については保護者同意のもと、成長ファイル(個別支援計画)を作成している。それを幼稚園・保育園から小学校に、小学校から中学校に渡すことにより、児童個々の情報交換に役立てる。</p>	<p>○今年度初めて成長ファイルを持っている児童が小学校に入学してきた。成長ファイルを持っていることについて、保護者が話すのか、教員が話すのかに迷いがあり、連携がうまくいかなかった。来年度への課題である。</p>	<p>○成長ファイルを活用して、幼保小中が連携を深められるようにしていきたい。</p>